



柳田あゆ

市議会レポート

ひまわり通信

2023年6月～2024年3月 まとめ号

2023年度の活動を振り返って

2月定例会をもって年4回ある定例会の全てを経験し、市議会の1サイクルを終了しました。振り返ると反省することばかりですが、皆さまからお寄せいただいた一つひとつの課題のおかげで沢山の「学び」と「気づき」そして「出会い」の連続で、充実した議員活動ができました。

2024年度は、この経験を活かして自分自身をバージョンアップしたいと思います。新年度もどうぞよろしくお願いいたします！



朝街宣 鶴沼海岸駅にて

2023年度の活動

	議会の動き	柳田あゆの活動	備考
2023年 4月	市議会議員選挙	初出馬、初当選	選挙期間4/16～22 投開票4/23
5月	臨時会*1	初めての議会	会期2日間(5/15、5/22)
	市政説明会*2	初当選議員として参加	4日間(5/23～25、5/29)
	公共施設視察*2	初当選議員として参加	2日間(5/30～31)
6月	定例会	一般質問(22日)	会期21日間(6/8～28)
7月		市町村議会議員研修	全国市町村国際文化研修所(滋賀、7/3～5)
8月	行政改革特別委員会	委員として出席	8/30(実行プランR4年度実績など)
9月	定例会	一般質問(15日)	会期40日間(9/1～10/10)
10月	全国市議会議長会フォーラム	会派で参加	北九州市(10/25～26)
11月	建設経済常任委員会 視察	委員として参加	福岡県糸島市・久留米市、長崎市(11/6～8)
	カフェトークふじさわ*3	委員として出席	11/19 広報広聴委員会の主催
12月	定例会	一般質問(20日)	会期22日間(12/1～22)
1月	子ども文教常任委員会	傍聴議員として出席	1/25 『少年の森』視察
	厚生環境常任委員会	傍聴議員として出席	1/26 『藤沢聖苑』『斎場』『墓園』視察
2月	定例会*4		会期29日間(2/28～3/27)
3月	建設経済常任委員会	委員として出席	3/1(観光振興・都市交通計画の改定など)



メイウ見学



農業WEEK

*1 臨時会では、正副議長の選挙と各議員の一年間の所属委員会を決めます。私は、建設経済常任委員会、行政改革等特別委員会、広報広聴委員会の所属となりました。

*2 いわゆる「新人研修」です。総務、福祉など市の全部局の長から説明を受ける座学と、市民病院、辻堂浄化センター、図書館などの現地視察があります。

*3 カフェトークふじさわとは：藤沢市議会が実施している議会報告会・意見交換会の一環です。この取り組みは、藤沢市議会基本条例に基づいて行われており、市民と議会が身近に交流し、市民の声を反映させるための場として注目されています。今回のテーマは「投票率UP大作戦！」午前午後の2部制とし、午前の部は10～17歳、午後は18歳以上の部を開催。私は午前の部に参加しました。

*4 年度最後の議会となる2月定例会は新年度の施政方針に対する会派の代表質問をおこなうため、個人の一般質問の機会はありません。なので、私個人の質疑は建設経済常任委員会でおこないました。



議会でこんな一般質問をしました！

子ども食堂の普及について～社会のインフラに～



初めての質問は、私自身が取り組んできた「子ども食堂」をテーマに選びました。「子ども食堂が各小学校区に一つずつあって、【社会のインフラ】のひとつになっていくと良いなと考えている。子ども食堂を公共施設で実施できるようにする、また、保健所が衛生面で助言するなど、全庁的に普及にとりくんで欲しい」と要望しました。



女性支援法～相談機能を充実する～

「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律、いわゆる『女性支援法』が施行され、市役所で実施される相談業務の最前線に立つ「女性相談支援員」の役割がいっそう重要になる。については、職責に相応しい処遇と増員も必要だと考える」と指摘しました



水田の保全～藤沢の田んぼを残そう！～

藤沢の農業は、トマトやキャベツ、養豚が盛んですが、水田は減る一方でこの50年の間に四分の一になりました。しかし、丹精込めてつくられた市内の新米は美味しいと好評で、学校給食に提供したり藤沢産100%で日本酒をつくったり、明るい話題もあります。そこで「農家の負担を軽減し稲作を続けられるよう『ライスセンター*』を設置したらどうか」と提案しました。



*ライスセンター：育苗から田植え、刈りとり・脱穀、調整の各過程で使用される農機等を共同で利用する施設

いも類中心の作付け (農水省『知ってる？日本の食料事情2022』パンフレットを元に作成)



朝食

食パン1枚、焼き芋2本、サラダ2皿、リンゴ1/6個



昼食

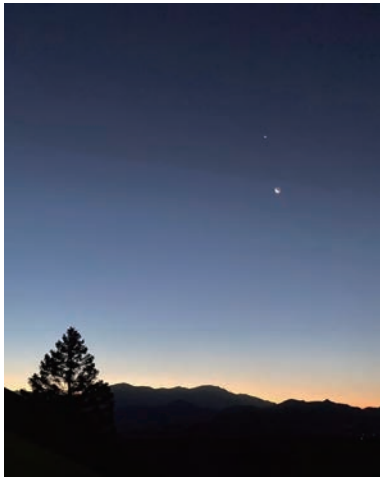
焼き芋2本、粉吹きいも1皿、野菜炒め2皿



夕食

白米茶碗1杯、粉吹きいも1皿、浅漬け1皿、焼き魚1切

*上記で1人・1日あたりのエネルギー2,418kcalとなり必要分を満たす。だが、日本国内の畜産はトウモロコシ等の飼料用穀物を輸入に頼っており食料自給力には反映されないため、牛乳は4日でコップ1杯、卵は14日に1個、焼き肉は14日に一皿、となってしまう。



藤沢市八ヶ岳野外体験教室について

同教室は、市が独自に八ヶ岳山麓に1992年に開設したものです。当初は市の直営でしたが、現在は民間企業の指定管理者*1による運営となっています。しかし私は「学校教育施設である以上は市の責任で運営するべきで、専任の指導主事*2を配置する必要があるのでは？」と質問しました。



*1 指定管理者制度は、民間事業者等の有する能力、経験、知識等を広く活用することにより、多様化する市民ニーズに効率的・効果的に対応するとともに、市民サービスの質の向上と経費の節減等を図ることを目的としています(藤沢市Webサイトより)

*2 指導主事は学校の営む教育活動自体の適性・活発な進行を促進するため、校長及び教員に助言と指導を与えることを職務として教育委員会事務局に置かれる職。教育課程、学習指導、生徒指導、教材、学校の組織編成その他学校教育の専門的事項の指導に関する職務を行う(文部科学省Webサイトより)

学校給食における地産地消について

藤沢市は「地産地消」の一環で、学校給食で地元産品を提供しています。これ自体は非常に良いことですが、気になるのは価格です。給食の材料費は一食分270円と決められており、昨今の食料費の高騰で厳しいコスト管理になっています。「市内産は他産地と比較して割高になる傾向があるので、給食の献立が窮屈にならないよう価格を抑えるために、生産者に対して差額分を補助するべきでは？」と提案しました。



公共交通について

バス路線の休止・減便が相次いでいて、このままでは公共交通の一角が崩れかねません。そこで「他市のように優待パスを発行して公共交通の利用者を増やし、路線を維持できるような施策が必要だ」と提案しました。

県内他市町村による高齢者を対象とした優待乗車制度	
厚木市、清川村、愛川町	70歳以上を対象に『かなちゃん手形』(後述)の購入補助
箱根町	65歳以上を対象にバス回数券の購入補助
横浜市	70歳以上の希望者を対象に敬老パスの交付(利用者負担あり)
茅ヶ崎市、綾瀬市、海老名市、大和市、座間市など	コミュニティバスの導入
横浜市、相模原市	路線バスに対する赤字補填

第6回藤沢市交通政策会議資料より抜粋

“農は国の基なり” 藤沢の市内農業の活力



食料自給率38%の日本の食料安全保障の脆弱性は主要国で突出しています。そこで政府は【食料自給力】を示し、もし日本の全ての農地と農業技術・労働力を「フル活用＝花を育てている農地や耕作放棄地も全て食料生産に使用」した場合はどうなるかとの試算の結果、カロリーの高い「いも類中心の作付け」の場合に国内自給が達成されます。しかし、メニューはご覧のとおり日常的な食生活とはかけ離れたものになります。この現実を踏まえて国民的な議論が必要だと言うのが政府の考えで、私も異論はありません。また、資材高騰を小売価格に転嫁できず苦しいとの生産者の声に応え、適正価格に向けた仕組みづくりも入りました。コストを適正に評価することは大切ですが、消費者負担ではなく直接農家を支える政策が必要で、財源を所得税の累進課税や資産課税にすれば格差是正策としても有効だと多くの識者が指摘をされていて、私も同様の意見です。

【農は国の基なり】。藤沢でも野菜や畜産などを中心に安心安全な食材を供給する都市農業が活発に展開されています。これからも、私は市内農業の活力を保つため提言をしていきます。

藤沢市の財政について

市の予算のうち【児童福祉費】の推移をみると、2013年度で143億円だったのが2022年度決算では230億円と、10年で60%増となっています。主な要因は保育園の施設整備費で、民営の保育園が2014年では26園が2023年4月1日現在で75園（公立14園）と3倍近くまで増やし、定員も2倍になりました。学校予算では、2014年度から中学校給食を開始、選択制ですが全校で実施されています。

このように、子育て世代のニーズに応える政策の結果が人口増につながったと評価できる一方で、その反作用として【過大規模校】が出現しています。宅地開発に学校環境の整備が追い付かず、辻堂小・鵜洋小の2校が県内屈指のマンモス校です。子どもたちは不自由な環境を強いられ、早急に手を打たなければなりません。地価が高い都市部で新たに用地を確保し学校を新設することは困難で、市は学区の見直しで対応する方針です。

学校に関しては校舎の老朽化も進んでいて、今後10年の間に小中学校10校の建て替えが計画されています。一校あたり40～50億円程度の事業費が毎年のように必要になります。そして「誰一人とりのこさない」インクルーシブ教育の体制を構築するにも、「教員のなり手不足」で先生が足りません。せっかく「子育て世代に選ばれるまち」になってきているのに、肝心の子育て・学校教育環境が不十分では看板倒れになりかねません。

そうした中で「小学校給食の無償化」と小児医療費の無償化「18歳まで延長」、が打ち出されました。実施には毎年14～5億円ほどの追加費用となります。

その上で、まちの顔である藤沢駅と周辺の再開発、市の文化の中心・市民会館の建て替えも予定されていて、それぞれ数100億円規模の大事業です。さらに、「村岡新駅」や湘南台駅からの「いずみの線」延伸も控えています。しかし今でも新年度予算の概算要求の時点で130億円もの財源不足に陥っています。

私は、小児医療費の拡充や小学校給食の無償化は、子育て支援・少子化対策として必要なことだと思い、自分の選挙でも訴えました。けれども、このような子育て支援政策が持続可能なのか不安なものも正直なところです。

市の財源には限りがあります。住民獲得・人口増を目的とした際限なき「自治体間競争」政策にどこまでついて行くのか。非常に難しい問題ですが、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。



柳田あゆ プロフィール

1971年7月29日 藤沢市鵜沼海岸生まれ。藤沢市議会議員(1期) 立憲民主党所属
元市長・衆議院議員の葉山峻は実父

【私の名前「あゆ」の由来】

「川をキレイに」を市長選のスローガンにしていた父が、「引地川に鮎が戻ってくるように」との願いを込めて名づけました。

聖マルコ幼稚園→藤沢市立鵜南小学校→玉川学園中・高等部
→玉川大学農学部農学科食料経済学研究室卒業

家族は夫、娘、義母の4人家族。片瀬山在住。趣味はウクレレ、
ガーデニング、ベランダ菜園。学生時代はテニスに熱中していました。
すっかり遠ざかってしまいましたが、復活したいです。



＼情報発信中です／

ホームページ



Facebook



X (旧Twitter)



Instagram

